

上手なメディアとのつきあい方ができる子どもを育てよう！

笠岡市教育委員会 学校教育課



テレビ、新聞、ケータイ、ゲーム機、…。私たちはたくさんのメディアに囲まれて生活しています。もはやメディアとつきあわない生活は考えられません。私たちだけでなく、これから長い将来にわたって情報社会・メディア社会を生きていく子どもたちにとって、メディアとの上手なつきあい方を身に付けることは、健康で安全な生活をするためにも、確かな学力や生きる力を身に付けるためにも極めて重要です。

例えば、メディア活用を「禁止」することは一時的な対処に過ぎず、上手なつきあい方を培うための「指導」ではありません。また、大人が子どものメディア活用に無頓着なまま「子ども任せに活用させる」のも、問題発生を助長することにつながりかねません。

子どもたちにメディアとの上手なつきあい方を身に付けさせるために、私たち大人が教えないといけないことを、ちょっと立ち止まって考えてみましょう。

子どもたちに教えたい3つの知識

1 メディアの特性や適切なメディアの選択の仕方

メディアにはそれぞれ特性があります。ですから、同じことを伝えようとしても、メディアによって伝わり方が違う場合があります。送り手が伝えたいつもりのことが、受け手には正しく伝わっていないこともあります。状況に合わせて適切なメディアを選択すること、いくつかのメディアを組み合わせて活用することは重要です。

2 メディアが生活に与える影響

情報には送り手の意図が込められています。そして事実のすべてが伝えられるわけではなく、事実の一部が伝えられています。ある意味、送り手が伝えたいことだけを伝え、伝えたくないことは伝えていないかも知れません。私たちはメディアが伝える情報から偏った影響を受けている可能性があることを自覚しなければなりません。伝えられた情報をすべてうのみにするのではなく、冷静に見極めることも必要です。

3 メディアが取り巻く社会での安全な行動の仕方

メディアが取り巻く情報社会には、不要な情報・危険な情報もあります。情報に出会ったとき、自分の力でしっかりと読み解きましょう。もし自分の力で読み解けない情報・必要か不必要か判断できない情報に出会ったら、迷わず信頼できる大人に相談しましょう。

ポイント

情報社会を支える技術の進展は著しく、新しいメディア・ツールが次々に登場します。その変化に追いつけなくても、大人は子どもにはない「幅広い知識や経験に基づいた判断力」を持っています。「新しいメディアのことは分からない」と尻込みするのではなく、上記したようなものの見方・考え方を発揮し、子どもたちのメディアとのつきあい方に積極的にかかわるようにしましょう。



とはいえ、新しいメディアについても知ろうとする心掛けは必要です。

ミニ知識

- 子どもたちの間にも最近「スマートフォン」利用者が増えているようです。
- スマートフォンは「無線LAN、Wi-Fi」でインターネットに接続して使うことが多いメディアですが、この場合フィルタリング※1の設定が特別に必要だったり、場合によってはフィルタリングが機能しなかったりします。
 - LINEというSNS※2の利用者の間でいくらかトラブルが発生していると聞きます。例えば、LINEは初期設定で、電話帳に登録された人を友だちに自動追加する機能がオンになっています。さらに「タイムライン・ホームページ公開」も自動的に友だちに対して行われるようになっています。その結果「思ってもいない人に自分の書き込みが読まれた」という出来事が発生します。もちろん、「設定変更」すれば、発信する相手は限定できます。

「誰に」「何を」発信するか常に意識することが重要！



注意事項

◎スマートフォンも携帯電話も「なぜ必要か」を話し合った上で、子どもに持たせましょう。また家族で「利用の約束」を決めて確実に「守らせる」ことも徹底しましょう。

※1 青少年に有害とされるサイトにアクセスできなくなるようにする仕組み。

※2 ソーシャル・ネットワーキング・サービスの略。会員になると自分のページ等を持つことができ、様々な人と交流可能になる。

